

令和 8 年度（2026 年度）

公益財団法人びわ湖芸術文化財団事業計画

I 事業方針

2026 年度は、滋賀県域全体の文化振興施策を総合的に推進する「公益財団法人びわ湖芸術文化財団」が滋賀県から第 5 期目となる指定管理（令和 8 年度から令和 10 年度までの 3 年間）を受託して新たなスタートを切る最初の年度であり、併せて、滋賀県文化振興基本方針（第 4 次）および財団の中期経営計画（令和 8 年度～令和 10 年度）の最初の年度である等、それぞれの大事な計画が時機を合わせて始まる出発の年である。これを念頭に置き、県立文化ホール 2 館体制のもと、優れた舞台芸術を国内外に発信するとともに、地域に根ざした文化芸術活動を支援する体制を整えていくことや各団体等との連携、市町ホール等との協働等、これまで培ってきたネットワークやノウハウを活かして、県民の皆様誰もが文化芸術を身近に触れられる多彩な事業の伸展に努めていく。

なお、びわ湖ホールにおいては、令和 8 年 7 月から令和 10 年 2 月までの 20 か月間、大規模改修工事により全館休館を予定しているが、その間も活動量は落とさず、文化産業交流会館との連携をはじめ県内外ホールとの協働等により魅力あふれる各事業を展開していく。

また、令和 9 年度の財団統合 10 周年、令和 10 年度のびわ湖ホール開館 30 周年、文化産業交流会館開館 40 周年を見据え、滋賀県全体の文化芸術の振興を担う唯一の公益財団法人として、健全な財団経営に努めていく。

1 法人本部

法人本部では、法人全体の総務・経理事務を行うとともに、組織運営の基盤を支える。

一方、地域創造部に「びわ湖芸術文化交流センターBiwako Arts & Communication Center／BiWACC（ビワック）」の愛称をつけ、発信力の強化と県内の芸術文化に関するコミュニケーションの活性化を図る。発信と対話を通して、創造性にあふれ、人と人とが響き合う、文化力豊かな滋賀の未来づくりに貢献する。

BiWACCは、地域の芸術文化活動を支えるパートナーとして、特に次の役割を担うことをめざす。① 誰もが集い、語り合い、共感を重ねながら、新しい発想や表現が生まれる場をひらくこと。② 表現者・鑑賞者・担い手が相互に関わり合いながら、滋賀らしい芸術文化を育むこと。③ 地域の魅力や多彩な才能を結びつけ、新たな価値や芸術が生まれる土壌を育てること。—これらの取り組みを通して、滋賀の芸術文化の可能性を広げ、持続的な発展へとつなげていく。

さらに、財団の活動を積極的に発信することで、企業・団体・個人の皆様からのご支援につなげ、財団運営の充実を図る。

2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

びわ湖ホールは、現芸術監督の阪哲朗が2期目を迎えるなか、大規模改修に伴い2026年7月から2028年2月までの20か月間におよぶ長期休館を迎える。こうした中であっても、我が国の舞台芸術の水準の向上に貢献し「トップレベルの劇場を目指す」という視点と、誰もが気軽に訪れることができる「親しみやすい劇場を目指す」という双方の視点に立ち、引き続き事業を展開していく。

特に休館中にあっては、次の事業実施方針を定め、これまで培ってきたネットワークやノウハウを活用し、県内外の劇場や文化ホール、大学等とも連携し、これまでの舞台芸術の創造活動を途切れさせることなく、さらに多くの方々に舞台芸術に触れる機会を提供できるよう取組を推進する。

びわ湖ホールの「創造活動の核」として設置している声楽アンサンブルを中心とした自主事業の制作を行うほか、人材育成やアウトリーチなど舞台芸術の普及に資する活動、地域の賑わい創出につなげる取組など、幅広い方々に親しみを持ってもらえる事業を展開する。

公益財団法人のメリットを最大限PRすることにより、寄付や企業協賛・オフィシャルスポンサー等、自主財源確保により一層努めていく。また、地域の団体・企業との連携強化や、次代を担う青少年が質の高い舞台芸術を体験し、びわ湖ホールをより身近に感じてもらう取組を進めるとともに、県民の皆様に興味と関心を持っていただく効果的な広報を行うなど、魅力ある情報の発信を図る。

ホールの休館中も、近隣住民や事業所からの駐車場利用の促進施策を展開するなど、利用の拡大を進めるとともに、省エネ化、施設・設備管理の効率化、利用者視点に立ったアクセシビリティの向上を図り、人にやさしく持続可能な施設管理に努める。

2026年度は、第5期指定管理業務や次期中期経営計画の初年度として着実なスタートを切るため、休館中も含めて、その活動量を落とすことなく、県内外においてびわ湖ホールの魅力を存分に発信できる好機と捉え、再開館＝開館30周年を飛躍の年につなげることができるよう取り組む。

【休館中の事業実施方針】

- ① これまで培ったネットワークやノウハウを活かし、県民をはじめ多くの方々に文化芸術に触れる機会を提供する。
- ② 再開館を見据え、各機能が迅速かつ最大限に発揮されるよう専門人材等の確保に資する取組に努める。
- ③ 休館中も活動量を落とさず、再開館＝開館30周年を飛躍の年にする取組に努める。

3 滋賀県立文化産業交流会館

滋賀県立文化産業交流会館は、滋賀県北部の芸術文化活動の振興拠点として、湖北地域の豊かな自然や歴史、文化の恩恵を受け、多様な分野との連携に積極的に努め、施設の多角的な機能を最大限に活かした、この地ならではの舞台芸術を幅広い世代の

方々に伝えていく事業を引き続き展開する。

2026 年度、当館の独自性を象徴する芝居小屋「長栄座」公演は、大きな節目となる 15 周年を迎える。また、2024 年度から 3 年計画で行ってきた「湖北百景」は集大成の年となる。今回は「観音さん」をテーマに据え、渡岸寺の国宝十一面観音や、湖北地域に深く伝わる観音信仰を描いた井上靖氏の名著『星と祭』を題材に、浪曲や新作舞踊を新たに制作する。また、次世代を担う青少年らによる「ユースシアター」事業も 10 周年の節目に新たな演出家を迎え、これまで築き上げてきた歴史の上に、また違った感性による独創的な舞台作品の創造に挑戦する。他にも「邦楽専門実演家養成事業」や「フィールドアート」、「ぶんさん箏曲アンサンブル」など、形を変えながらも地道に継続してきた数々の事業があり、これらは現在、同館の事業を支える柱となっている。

さらに 2026 年度は、7 月からびわ湖ホールが長期休館に入ることから、両館が密接に連携し、びわ湖ホールの事業を同館において実施する。

イベントホールにおいては、その多目的な機能を存分に発揮させるため、「長栄座」に関連した「夏のフェスティバル」をはじめ、ベビーカーのままでも気軽に入場できる「0 歳児からのコンサート」、マーチングバンドの躍動感あふれる祭典「フィールドアート」など、同館の独自性を鮮明に打ち出した企画を実施する。あわせて、県北部の音楽文化の普及・振興を図るため、地域の学校や団体と連携を深める。特に中学校・高等学校の生徒を対象に、連携協定を締結しているプロの吹奏楽団による初心者向けクリニックと演奏会を開催するなど、教育的な側面からも支援を行う。新たな試みとしては、親子で最新のデジタルアトラクションを体験できる事業を展開し、時代のニーズに応じていく。また、イベントホールが抱える音響面の課題については、イマージブオーディオを用いた演奏会をアートマネジメント人材養成講座の舞台技術講座として企画し、施設の付加価値向上をめざす。

新江州シアター（小劇場）では、滋賀県ゆかりの新進アーティストによるコンサートや、第一線で活躍するアーティストのリサイタルを開催するとともに、びわ湖ホールとの協力により、質の高い声楽アンサンブルや声楽デュオコンサートを湖北の皆様楽しんでいただく機会を創出する。

地域振興の面では、「長栄座」公演にあわせて伝統的工芸品や特産品等の展示・販売を行い、地元の産業と文化が一体となった賑わいを創出する。また、長浜観光協会との協力による「長栄座」関連ツアーの企画や、公益財団法人平和堂財団から受託している滋賀県ゆかりの若手演奏家を育成する音楽事業も引き続き推進する。

また、会館経営にあたっては、国や公益法人、民間等による補助金・協賛金および文化基金の獲得に積極的に取り組むとともに、新幹線米原駅から徒歩 7 分という立地の優位性を最大限に活かし、公式ウェブサイトや SNS 等のデジタル媒体を活用した効果的な情報発信を強化することで、多目的施設としての認知度向上を図る。

これにより、自主事業の集客拡大をめざすとともに、イベントホールや会議室等における多様な貸館利用を促進し、施設の稼働率および収入の向上に努める。

さらに、施設運営においては、どなたでも気軽に足を運んでいただけるよう、快

適性に配慮した環境整備を継続するとともに、利用者ニーズや社会動向を踏まえた柔軟な運営を行う。併せて、地域住民や関係団体との連携を一層深めながら、常に社会や地域に開かれた湖北地域における芸術文化活動の振興拠点として、時代に即した魅力ある取り組みを進めていく。

II 事業計画の概要

1. 法人本部

(1) 自主事業

[BiWACC](#)（地域創造部）では、相互に影響し合い、ともに成長を促す「好奇心」「感性」「記憶」の3つをキーワードに、次のプロジェクトを展開する。まず『創造発信プロジェクト』では、新しいアプローチを通じて芸術と地域社会との関係をより深め、人々の好奇心を育む。次に『芸術文化サポートプロジェクト』では、県内の文化ホールや文化団体、アーティストなどと協働し、地域に根ざした多様な創作活動を支援する。こうした取り組みにより、感動の輪を広げていく。そして『調査・情報交流プロジェクト』では、滋賀の芸術や文化に関する記憶（アーカイブ）を蓄積・発信するとともに、対話と交流の場を提供する。これら3つのプロジェクトを通して、だれもが文化の担い手となれるような“つながる場”や“きっかけ”を生み出していくことをめざす。

ア. 創造発信プロジェクト ～好奇心をつなぐ 次代につなぐ新たな芸術を～

表現者、創造者らとの協働により、滋賀の魅力や未知の可能性に対する人々の好奇心を喚起し、そこで生まれた新しい発見と学びを芸術と地域に還元する。

「びわ湖・アーティスト・みんぐる」では、県内各地に伝わる民話を題材に、アーティストが地域の人々や子どもたちとの交流を重ねながら創作を深め、音楽や美術によって語り継ぐプログラムを展開する。また、県内の個性豊かな建物や歴史的建造物などを舞台に、地域の魅力と結びついた特別な鑑賞体験を提供する「しがユニークベニュー公演」も実施する。さらに、「アーツ&コミュニケーション・パフォーマンス」と題して、次世代の視点から芸術を捉え直し、実演と対話を通じて表現者と鑑賞者の双方に新たな気づきと楽しみ方を提示するなど、芸術に出会う“新しい回路”をひらく取り組みにも挑戦していく。

イ. 芸術文化サポートプロジェクト ～感性をつなぐ 感動や体験を活力に～

県民の主体的な芸術文化活動を支える協働事業に取り組み、県内各地へ感動の輪を広げることで、多様な感性が息づく豊かな土壌づくりを進める。

文化ホールや文化団体、アーティストなど、芸術文化と地域をつないで活躍する人たちと連携し、それぞれのアイデアと地域の特性を生かした個性豊かな創作活動を県内各地で展開する。また、分野や世代を超えたネットワークづくりを進めることで、新たな出会いや協働を生み出す環境を育む取り組みにも挑戦していく。

ウ. 調査・情報交流プロジェクト ～記憶をつなぐ 地域の誇りを活動の力に～

滋賀の「記憶」を探り、記録し、次代につないでいくため、総合文化誌『湖国と文化』を発行し、丁寧な取材と調査に基づき、滋賀の文化に関する最新かつ信頼性の高い情報を広く発信する。

あわせて専用ウェブサイトを開設し、県内の芸術文化情報を集約する情報センタ

ーとしての機能を強化する。わかりやすい情報提供と、コミュニケーション機能を充実させることで、地域の文化活動を支える基盤づくりに取り組む。

(2) 受託事業

ア．滋賀県芸術文化祭

滋賀県芸術文化祭実行委員会を組織し事務局運営を担い、県民の皆様の文化芸術創作活動における発表の場として、美術、写真、文芸の3つの公募展を開催し、作品を身近に鑑賞できる機会を提供する。

また、多くの県民の皆様に滋賀県芸術文化祭にご参加いただくため、SNS 等を用いて参加事業の募集や広報を行う。

イ．県内文化情報提供事業

(ア) 湖国文化情報 『れいかる』 編集・発行

県内各地の文化施設で行われる各種文化活動を紹介する湖国文化情報『れいかる』を編集・発行し、県民の皆様への情報提供を通して、文化活動の一層の活性化を図る。

(イ) 総合文化誌 『湖国と文化』 提供

総合文化誌 『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等へ配本し、湖国の文化の魅力を発信する。

(3) 独自事業

文化団体、芸術家、企業、学術機関、行政など、多様な分野で活躍する人々や団体によって構成される「文化・経済フォーラム滋賀」の事務局を担う。分野の枠を超えた交流を促進するとともに、「文化で滋賀を元気に！」を合言葉に各種事業を推進し、滋賀における文化と経済の連携を強化し、地域のさらなる活性化をめざす。

(4) 広報営業活動

びわ湖ホールや文化産業交流会館と連携を図りながら、各種事業チラシの配布、SNS での配信をはじめ、ホームページによる広報やチケット販売等を行う。また、びわ湖ホールの広報ネットワークも活用しながら、新聞社や放送局への効果的なプレスリリースに努める。

また、びわ湖ホール、文化産業交流会館および BiWACC（地域創造部）を一体的にとらえ、それぞれが発行する広報媒体を有効活用し、それぞれの営業機会を相互に利用する効果的な営業活動を行う。

2 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

(1) 自主事業

ア. 2026 年度自主事業

2026 年 7 月から 20 か月にわたる長期休館に入るが、県内外の劇場や文化ホール、大学等とも連携し、国内トップクラスの公演や誰もが舞台芸術の楽しみを味わうことができる自主公演や普及事業を推進して、びわ湖ホールの魅力を発信し、再開館後の来場につなげるよう努める。

びわ湖ホールの「創造活動の核」として設置しているびわ湖ホール声楽アンサンブルを引き続き運営し、長期休館も踏まえ、声楽アンサンブルによる自主事業の制作を中心に、質が高く特色ある事業や舞台芸術の普及振興への取組を実施する。

また、地域の団体・企業との連携強化や、次代を担う青少年が質の高い舞台芸術を体験し、びわ湖ホールをより身近に感じてもらえるよう取り組む。

(ア) オペラ等

日本最高水準の力を結集して上演する「プロデュースオペラ」、青少年や初心者に向けた入門的役割も果たす「オペラへの招待」シリーズ等により、優れた作品を上演する。

- ・「プロデュースオペラ」は、県内でも屈指の音響を誇る守山市民ホールにおいて、モーツァルト作曲 歌劇『ドン・ジョヴァンニ』を、日本を代表するキャストを配し、阪芸術監督の弾き振りにより、セミ・ステージ形式でお届けする。
- ・「オペラへの招待」シリーズは、声楽アンサンブルのレパートリーである林光作曲『森は生きている』と、ニーノ・ロータ作曲の『フィレンツェの麦わら帽子』を上演する。

『森は生きている』は、阪芸術監督の指揮で、5 月には休館前の最後のオペラ公演としてびわ湖ホールで、7 月には 2017 年以来となる地域招聘オペラ公演として新国立劇場で上演する。また、『フィレンツェの麦わら帽子』は、イタリアオペラの第一人者といえる園田隆一郎の指揮により、3 月に栗東芸術文化会館さきらと連携して実施する。本シリーズでは、お求めやすい入場料と本格的な公演レベルの両立で、新たなファン開拓に努める。

(イ) オーケストラ

- ・1 年を締めくくる特別な日を最高の音楽に包まれて過ごすコンサートとして定着している「ジルヴェスター・コンサート 2026」を、守山市民ホールにおいて、阪芸術監督の指揮により開催する。合唱やファンファーレを一般募集して、多くの方にも出演いただく。
- ・「名曲コンサート」では、ひこね市文化プラザにおいて、誰もが知る有名な交響曲を、曾我大介の指揮、日本センチュリー交響楽団の演奏でお楽しみいただく。
- ・ザ・シンフォニーホール（大阪市）において、第 1 回びわ湖ホールピアノコンクールの各部門第 1 位を受賞した 4 人をソリストに迎え、阪芸術監督の指揮で、コ

ンチェルトの名曲をお届けする。

- ・ 青少年・初心者向けのコンサートとして定評のある関西フィルハーモニー管弦楽団による「子どものための管弦楽教室」を、守山市民ホール（公益財団法人守山市文化体育振興事業団）とひこね市文化プラザ（指定管理者：株式会社ケイミックスパブリックビジネス）それぞれとの共催で、県内2会場で開催する。

（ウ）声楽アンサンブル公演

- ・ 声楽アンサンブルの定期公演は、休館中の機会を活かして、初の県外（京都）公演を行うなど、県内外で4公演を行い、ファンの獲得につなげる。第83回定期は、休館前の最後の公演として、桂冠指揮者の本山秀毅の指揮により小ホールで上演する。休館中は、ガリバーホール（高島市）、京都府民ホール アルティ、草津クレアホールを会場として3公演を県内外で開催し、声楽アンサンブルの魅力を発信していく。
- ・ 幅広い世代に広く親しんでいただけるよう、2020年に開始した声楽アンサンブルによる、童謡や唱歌、昭和・平成の名曲で綴る「美しい日本の歌」コンサートを、草津クレアホールと文化産業交流会館で引き続き実施する。

（エ）室内楽・声楽等

- ・ “明るい歌声で皆さんを元気に” をモットーに活動する、びわ湖ホール四大テノールによる公演を、日野町町民会館わたむきホール虹で実施する。
- ・ チケット価格を1,100円、公演時間も1時間程度と短く設定し、より気軽にお楽しみいただけるシリーズ「気軽にクラシック」は、休館前に1公演、休館中は文化産業交流会館と東近江あかね文化ホールの2公演を開催する。
- ・ 「室内楽への招待」として、ドイツ・ミュンヘンをベースに活躍し、使用楽器は、ストラディヴァリウス「パガニーニ・クアルテット」であるゴルトムント弦楽四重奏団のコンサートを草津アミカホールで開催する。また日本室内楽振興財団と連携して、若手音楽家に向けたマスタークラスも行い、びわ湖ミュージックハーベスト受講生等が受講する。

（オ）伝統芸能

- ・ 伝統芸能では、開館以来毎年上演している野村万作・野村萬斎狂言公演を、文化産業交流会館「長栄座」特設舞台にて実施する。

（カ）フェスティバル等

- ・ 阪芸術監督とびわ湖ホールでともに創り上げる「びわ湖の春 音楽祭」を4月25日、26日の2日間にわたって開催する。前年度より公演数を増加し、阪芸術監督の一押しアーティスト、大編成のオーケストラ、高校生や地元の音楽家等まで幅広い方々に出演いただき、多彩な音楽をお届けする。県内各地で4～5月に行われる音楽祭関連企画との連携や、周辺企業・団体の協力を得て行う周辺企画など

により、音楽祭全体を盛り上げるとともに、地域の活性化にもつなげる。

(キ) 普及事業

- ・県や県教育委員会と連携し、次代を担う青少年が舞台芸術に触れる機会を創出するため、県内の小学校等をびわ湖ホールに招待して本格的なオーケストラ公演を鑑賞してもらう「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」（「ホールの子」事業）を、前年度から公演数を大きく増加し、8日間計16公演で開催する。また、びわ湖ホールならではの工夫を凝らした「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」を広く一般にも鑑賞いただけるよう、引き続き同じプログラムによる有料公演も実施する。
- ・県内市町教育委員会や県教育委員会と連携し小学校を会場として、オペラ『泣いた赤おに』を上演する。また、独立行政法人日本芸術文化振興会の委託を受け、びわ湖ホール声楽アンサンブルが実演団体として、引き続き全国の小学校・中学校等において巡回公演を行う。
- ・体育館で本格的な音楽公演を行う「学校巡回公演」、音楽の授業でミニコンサートや歌唱指導を行う「ふれあい音楽教室」を小中学校へ出向き実施する。
- ・阪芸術監督が講師を務め、指揮者やコレペティトウアを目指す若手音楽家を指導する「阪 哲朗オペラセミナーⅣ」を大阪音楽大学と連携して実施するとともに、世界を舞台に活躍したソプラノ歌手 林康子を講師に迎え、声楽アンサンブルへの指導を公開する「林 康子 声楽曲研修」を栗東芸術文化会館さきらと連携して実施するなど、引き続き次世代を担う人材の育成にも努める。
- ・メインロビーをはじめ、パブリックスペースを活用した無料のロビーコンサートを開催し、ホールの賑わいや気軽に舞台芸術・音楽を楽しんでいただける機会の創出を図る。
- ・劇場を訪れにくい人にも舞台芸術に触れられる機会を提供するため、医療・福祉施設における「ホスピタルコンサート」などを実施する。
- ・一般財団法人地域創造の「公共ホール現代ダンス活性化事業」を活用し、現代ダンスによるアウトリーチと公募ワークショップを実施する。
- ・公演に関連したワークショップ、セミナー・講座などの開催や、音楽に関心を持ってもらうための子ども向け企画、バックステージツアーなどを行い、舞台芸術の普及・振興に努める。

(ク) 誰もが鑑賞しやすい環境づくり

障害のある方や子育て中の方など様々な事情のある方々も来場しやすいよう、車椅子席の設置、ヒアリンググループの運用、字幕の掲出、託児サービスの実施など、引き続き誰もが鑑賞しやすい環境づくりに努める。

イ. 次年度以降自主事業準備

2027年度に開催する自主事業公演の事前準備を実施するとともに、2028年度以降

の自主事業実施に向けて、公演調査や事前交渉を行う。

ウ．専属声楽アンサンブル運営

びわ湖ホール創造活動の核として設置している「びわ湖ホール声楽アンサンブル」は、定期公演をはじめ、「オペラへの招待」シリーズなどの自主制作オペラ公演、「美しい日本の歌」公演などの自主公演に出演する。

また、小中学校へ出向いての「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」、県内各地域の教育機関と連携して実施する「県内巡回オペラ」、県内の児童を対象にしたオーケストラ公演「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」などの普及事業でもその中心となって活動を展開し、子どもたちをはじめ、県民の皆様が舞台芸術に触れる機会を創出する。さらに依頼公演にも積極的に取り組むなど、県内外で幅広い活動を展開する。

80名を超えたソロ登録メンバーも含め、今後もメンバーの育成、舞台芸術の普及・振興と、県内外で幅広い活動を展開していく。

(2) 広報営業活動等

情報発信とチケットの販売促進を図るため、Webサイト・SNS・メールマガジン等インターネットを使用した幅広いPR活動のほか、多様なパブリシティ活動、情報誌の発行、新聞・雑誌・電波・交通等による広告を行う。また、継続会員は休館中の年会費を無料にする等、びわ湖ホール友の会会員数の維持や、より魅力的な特典のある会員区分への誘引、舞台芸術基金の周知に努め、幅広く寄付を呼びかけるとともに、併せて文化産業交流会館の事業に協賛等を募るなど、協賛支援の確保についての営業活動を展開する。劇場サポーター、シアターメイツをはじめ、地域のつながりや地元企業の協力を得て、チラシや情報誌の配架に努めるなど、人と人とのネットワークづくりを生かした広報活動を行う。

ア．広報営業

びわ湖ホール声楽アンサンブルの活動、自主事業、普及事業等に関する情報が記事やニュースで取り上げられるようマスコミ等へ効果的な情報提供を行うとともに、リレーションを構築する。

ホームページの充実を図り、メールマガジン、SNS等による公演情報等の発信、舞台芸術情報誌「湖響」(年4回)、公演チケット情報誌「Stage」(毎月)を発行する。

また、想定される購買層やチケットの販売状況を勘案し、顧客の動向に即した広告宣伝(新聞・雑誌・ウェブサイト・電波・SNS・交通広告等)を行う。

さらに、オフィシャルスポンサー制度をはじめとする企業団体等の協賛制度の周知・利用を積極的に進め、びわ湖ホールのファンを増やし、チケット販売、友の会会員、寄付者等の増加につなげるために、地域の企業、経済団体、関係施設・団体等との交流を深めるとともに、各会員との良好な関係継続に努める。友の会の特別

会員・サポート会員については、そのメリットを積極的にPRし、個人・企業を問わず広く加入を勧める。

BiWACC（地域創造部）や文化産業交流会館を一体的にとらえ、広報媒体や営業の機会を相互に有効活用するなど、財団としてのメリットを最大限生かした営業活動を行う。

イ．チケット販売

友の会会員への優先発売や委託販売先ウェブサイトとの連携を行うとともに、組織販売やこれまで蓄積した顧客リスト、アンケート結果の整理・分析を進めることで、チケットの効果的な販売活動につなげ、顧客の拡大に努める。オペラ公演等のネット販売においては、英語によるチケット購入を案内し、海外誘客にも取り組む。

さらに、企画商品の開発や旅行会社・ホテル等とのタイアップ企画等を通じた販売にも積極的に取り組み、新たな顧客層の開拓に努める。

また、2022年度末にリニューアルしたチケットシステムを活用し、電子チケットの導入検討など、さらなる利便性の向上と、安定したシステムの稼働の継続に努める。

なお、7月の事務所移転に伴い、チケットセンターも移転を予定している。

ウ．ホームページの運用

2021年度にリニューアルしたホームページの内容を充実させ、常に最新の情報を提供することにより顧客の利便性やアクセス環境の向上を図る。特に公演ページでは、トピックスやメディアでの紹介記事、出演者からのコメント、公演写真やYouTube動画を掲載する。また、「びわ湖の春 音楽祭」は、音楽祭に興味を持ってもらえるよう、公演内容やコラム等を紹介するとともに、SNSを積極的に活用し、身近な情報を頻繁に発信することで、ウェブサイトへ誘導し、ホールへの来場およびチケットの購買行動に結びつきやすくなる工夫を凝らす。

さらに、ホームページへのアクセス数や動向を分析することにより、広告の打ち方やデザインのあり方を改善し、訪問者数のアップを目指す。

なお、休館中の出張公演について、来場者に混乱を招かないようわかりやすい情報提供に努める。

エ．友の会運営

顧客の拡大・定着、チケット販売等の営業活動の促進、将来的な制度見直し検討など、支援者の拡大の手法について再開館時に成果を得られるよう検討を行う。

また、機会をとらえて会員特典を詳しく説明することにより、サポート会員、特別会員への加入率を高め、チケット販売促進に結びつける。

オ. 人と人とのネットワークづくり

(ア) 劇場サポーター運営

人のネットワークによる観客創造を目的とした「劇場サポーター」制度については、講座や交流会を実施し、公演の鑑賞を勧めることで、舞台芸術の普及を図るとともに、休館期間を含めサポーターとびわ湖ホールとの関係維持に努める。

(イ) シアターメイツ

青少年の舞台芸術への関心を高め、観客層の裾野を広げるため、引き続き「シアターメイツ」会員を募集し、対象公演のチケットの割引販売、稽古見学会等を実施する。特に休館中は県内外に出向いて多くの青少年に公演を観てもらえる機会と捉え、PRに努めたい。

また、シアターメイツ特別顧問キャラクター「にゃんばら先生」を活用したPR活動を行う。

(ウ) 館内見学ツアー等

びわ湖ホールや舞台芸術への興味、関心を高め、観客創造に資するため、好評の「まるっとステージツアー」を引き続き実施するほか、舞台芸術に関する雑誌、図書、CD、映像ソフト等を備えた舞台芸術情報サロンの運営（～6月）やホールグッズの販売等を行う。

さらに、自主公演時の託児サービス等を実施（休館中は一部会場にて）するなど、来館者サービスの充実に努める。

カ. びわ湖ホール舞台芸術基金の周知と活用

びわ湖ホール舞台芸術基金の周知に努めるとともに、遺贈の受け入れを含め寄付拡大に努める。また、寄付を活用した事業展開を図る。

(3) 施設の提供

今年度は、びわ湖ホール開館27年にして初となる大規模改修工事の着工を迎える。これに伴い、今年度6月末をもって、びわ湖ホールのすべての施設の供用を休止、20か月間の長期休館に入る。

7月以降は、令和10年3月の再開館に向けて、料金や利用方法の見直しに取り組む。今年度末には貸館受付を再開することになるため、年度の早いうちに検討を行い、利用者への周知を図る。

駐車場については、長期休館中も従来通り営業を継続するため、引き続き安全かつ快適な施設の提供・運用に努めつつ、ホール利用者以外への駐車場利用の促進に努める。

(4) 管理運営

長期休館に入る7月までは引き続き、施設の適正な管理に努め、安心・安全な施

設運営を図る。

7月以降も、長期休館中に施設・設備の基本的な機能が損なわれることがないよう、工事箇所以外の施設管理を引き続き行う。

災害時の緊急対応について、「滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールおよびびわ湖ホール駐車場災害時の緊急対応要領」をホール職員に徹底、防災訓練を実施し、非常時の対応に備える。

ア．ホール管理運営

6月までは、引き続き施設の維持管理を適正に行うとともに、公演開催に伴うチケット販売業務、総合案内業務、舞台技術業務およびレセプション業務等について、びわ湖ホールにふさわしい質の高いサービスを提供する。

7月以降は、再開館時まで、施設設備を良好な状態に保つため、基本的な建築物の維持管理に加え、給排水設備や空調機器の運転管理・維持管理、突発的な施設・設備の不具合への対応を行う。

イ．舞台技術運営

(ア) 舞台設備および備品管理運営

舞台設備の日常点検および管理を適正に行うとともに、施設利用者の使いやすい環境を提供する。

(イ) 技術的専門性の向上

びわ湖ホールの機能を十分に活用し、創造性を発揮した舞台技術が発揮できるよう高度な技術力の確保に努める。また、他の劇場との情報交換や調査研究を通して、技術的専門性の向上を目指す。

(ウ) 舞台監督、プランナーの活用

自主事業では舞台監督、プランナー、チーフオペレーターなどを職員で担当できるよう人材育成に努める。貸館事業では要望があれば舞台監督、プランナーを担当し、オペレーターの増員はできるだけ職員を配置することで増収に努める。

(エ) 人材育成

「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨に沿った取り組みとして、質の高い上演環境の確保が必要であり、技術の進展に対応した研修を行う必要がある。びわ湖ホールが7月から休館となることから、同じ財団が運営している文化産業交流会館にて職員の資質の向上を図るために最新の音響技術であるイマージブ・オーディオの研修会をびわ湖ホールの機材等を用いて文化産業交流会館の技術スタッフと共に研究する。また、この研修会においては公共劇場舞台技術者連絡会や全国公立文化施設協議会など関係団体や、民間企業・技術系の大学・専門学校とも連携し、専門性の向上に努める。

(オ) 安全管理

「びわ湖ホール劇場技術運営マニュアル」に則り、舞台の安全な管理運営に努める。

ウ. 駐車場管理運営

駐車場の維持管理を適正に行い、ホールの休館中も、近隣事業所の関係者や地域住民など、より多くの方々が利用しやすい運営を行う。

短時間の駐車無料化や最大料金制を早期に導入するとともに、ホール休館中は、施設利用者の駐車料金割引導入に向けた検討を行うなど、一層のサービス向上を図る。

(5) ネットワークの形成

県の公立文化施設協議会の会長館として、県内公立文化施設のネットワーク形成と職員の能力向上のため、引き続き館長会議やびわ湖舞台芸術スタッフセミナーとしてアートマネジメント研修等を実施する。また、文化ホールでの勤務経験が短い職員を対象とした「初級者研修」や、オンラインの座談会等を新たに企画し、県下全域で、県民の舞台芸術活動を支える人材づくりに取り組む。

3 滋賀県立文化産業交流会館

(1) 自主事業

ア. 令和8年度自主事業

北部唯一の県立文化ホールとして、魅力ある地域資源や施設の特性を活かし、多様な主体と連携しながら5つの柱を掲げ自主事業を展開する。なお、古典芸能事業については、当館の独自性を発揮する取り組みとして、次世代に継承するため、発信力を高め、継続実施する。

(ア) 優れた舞台芸術の創造と発信

質の高い舞台芸術を提供するという使命を掲げ、芸術性・独創性に富んだ作品の創造・制作に積極的に取り組む。古典芸能に注力しながらも、現代作品まで幅広く取り上げるとともに、国内外の優れたアーティストとの協働を通じて、地域に新しい芸術的価値をもたらすことをめざすとともに、地域文化の魅力を全国へと発信する。

北部地域の文化資源を題材にした自主制作公演「湖北百景」を展開しており、2024年度から3年計画で竹生島、余呉の羽衣伝説、そして2026年度は「十一面観音」をテーマとし、観音信仰や井上靖著『星と祭』を取り上げる。また、びわ湖ホール休館時の連携事業として野村万作・野村萬斎狂言公演を芝居小屋「長栄座」で開催し、ホールとは異なる趣を味わっていただく。音楽分野では、滋賀県ゆかりの音楽家が次の演奏家へとバトンを渡す形で新しい創造を発信する「びわ湖ミュージックコネクト」、びわ湖ホール声楽アンサンブルによる「ぶんさんスプリングコンサート」、芝居小屋「長栄座」にて童謡や唱歌を観客が口ずさみ楽しむ「美しい日本の歌」を実施する。

(イ) 芸術文化を通じた子どもたちの育成

未来を担う子どもたちに芸術文化に触れる機会を数多く提供し、その感受性や表現力を育む。舞台鑑賞体験にとどまらず、ワークショップやアーティストとの交流など、体験的な学びの場を設けることで、子どもたちが自ら考え、感じ、創造する力を培う。

シエナ・ウインド・オーケストラと連携した「やってみよう！吹奏楽シリーズ」では、中学生・高校生がプロから直接指導を受ける機会を提供するとともに公開公演も行い、地域の吹奏楽振興に寄与する。0歳児から楽しめるコンサートや、邦楽演奏家を学校に派遣する「和のじかん」により、幼少期から舞台芸術や邦楽と触れ合える機会を提供する。さらに、「ぶんさん箏曲アンサンブル」、「子ども日本舞踊教室」、デジタル技術を駆使した「親子で楽しむデジタルアトラクション Asobeats ♪」、びわ湖ホール休館時の連携事業として「ピアノ解体ショー」、「公共ホール現代ダンス活性化事業」など、体験型の学びを重視した取り組みも充実させる。また、マーチングバンドの迫力ある舞台「フィールドアート2027」を開催し、イベントホールの特性を最大限に活かした演出を届ける。これらを通じて、子どもから大人まで幅

広い世代に芸術文化の魅力を体感していただくとともに、未来の担い手を育てる。

(ウ) 若手芸術家の発掘と支援

次代の芸術文化を担う若手アーティストの発掘や、舞台技術者の支援を行う。創作や発表の機会を積極的に設けるとともに、専門的なスキルや経験を磨くための環境を提供し、才能が地域から全国、さらには国際舞台へと羽ばたくことを支援する。

滋賀県ゆかりの若手演奏家によるコンサートシリーズ「びわ湖ミュージックフォレスト」を開催し、演奏の機会を提供することで将来の活躍を支援する。「邦楽専門実演家養成事業」では、箏・十七絃・三絃のアンサンブル技術を実践的に学ぶ講座を展開し、流派を越えた一流講師陣による指導を通じて舞台表現力を養成する。さらに、アートマネジメント人材養成講座では音響分野を取り上げ、イマーシブオーディオの可能性を探る講座を全国の劇場と連携して実施する。加えて、「鳩の音楽会」「ミュージックハーベスト」「音楽部門芸術奨励賞選考会」など、平和堂財団からの受託事業も実施し、多角的に音楽文化の振興を図る。

(エ) 誰もが芸術文化に親しめる居場所づくり

芸術文化が果たす「社会包摂」の役割を重視し、誰もが安心して集い、芸術文化に親しめる居場所づくりを進める。世代や背景の異なる人々が芸術を通じて交流し、互いに理解を深め合う場を創出することで、孤立を防ぎ、地域におけるつながりを取り戻すことをめざす。

2026 年度で 10 周年を迎えるユース世代を対象とした「ユースシアター事業」を開催し、年齢や地域の異なる子どもたちが交流を深めながら表現力や想像力を育む機会とする。また、びわこ文化センターでは音楽・美術・書道など約 70 講座を開講する。成果発表の場として「かがやき☆フェスタ」を実施し、多世代が集う場としてにぎわいを生み出す。加えて、ロビーにはプレイガイドやアートインフォメーションコーナーを設置し、催し物の情報発信や書籍・新聞の配架を行うことで、気軽に訪れ思い思いに過ごせる空間をつくる。

(オ) 芸術文化と産業分野との連携による北部振興

芸術文化の力を活かし、産業分野との連携を深めることで、文化と経済の両輪による地域の活性化を図り、新たな賑わいと交流の機会を創出する。芸術文化がもたらす感動や交流を地域振興の原動力と位置づけ、県北部の魅力を広く発信し、地域全体の活力向上に寄与する。

約 2,000 人が収容できるイベントホールを活用し、ポピュラー音楽コンサートを開催し、県内外からの集客によるにぎわいを創出する。また、観光協会等と連携し、「長栄座」公演と地域の自然・歴史・食文化を組み合わせたツアーを実施するほか、公演にあわせて伝統的工芸品や特産品の展示・販売を行い、地域の魅力発信と再訪促進を図る。加えて、文化と産業を結びつける「文化ビジネス塾」を通じて、文化と経済の両面から地域振興を推進する。

(2) 広報営業活動等

ア. 広報営業活動

情報誌「湖響」(年4回)への記事掲載や中日新聞、京都新聞への寄稿、自治体広報紙、ホームページおよびSNSによる情報発信、福井県、岐阜県エリアを含む新聞・放送局への資料提供や、事業協力名義等を得てテレビ・ラジオ、雑誌・情報誌等による広報を行う。

また、びわ湖ホール、BiWACC(地域創造部)を一体的にとらえ、それぞれの営業機会を相互に活用しながら効果的な営業活動を行う。

さらに、近隣の商業施設や自治会等に毎月、事業案内を行うとともに、引き続きダイレクトメールの送付やメールマガジンを配信する。

イ. チケット販売

インターネットによるチケット販売をはじめ、団体販売やこれまでに蓄積した顧客リスト等を活用しながら、効果的な販売活動を行い、入場料収入の増加や顧客の拡大に努める。

また、びわ湖ホールチケットセンターでの販売、専用のチラシラックの設置、ダイレクトメールの一括発送、公演時のチラシ挟み込み等を2館で協力しながら、チケットの販売促進に努める。

ウ. アートフレンド(Eメール会員)

インターネットによるチケット販売や公演アンケート等でメールでの情報提供を許可いただいた方へ、定期的にチケット販売や公演についてのトピックスを配信する。

エ. 施設利用促進

イベントホール、新江州シアター(小劇場)、会議室、練習室などの多様な施設内容に加え、キャッシュレス決済を導入している利便性をPRする。併せて、親しみやすくわかりやすい会館パンフレットを作成・配布することで、幅広い世代に当館への理解と興味を深めていただく。これにより、新規利用者の獲得とリピーターの確保を図り、施設全体の利用促進につなげる。

(3) 施設の提供

誰もが安心・安全に利用できる公共施設を目指し、利用者の安全確保を最優先とした適切かつ効率的な管理運営を推進する。また、ロビー周辺については、文化施設としての特性を生かし、多様な来館者が快適に過ごせる開放的で魅力ある空間づくりに努め、滞在価値の向上を図る。

さらに、開館から39年が経過し施設の老朽化が進行する中、令和8年度の県施設整備費予算(維持保全状況調査)を踏まえ、安全性および機能性の確保を最優先課題として、環境への配慮や将来的な利用ニーズの変化も見据えた計画的かつ着実な

改修が実施されるよう、引き続き県に対して情報提供と協議を行っていく。

(4) 管理運営

効率的かつ持続可能な施設運営に努めるとともに、関係法令を遵守した適正で安全な管理と、利用者ニーズに応じた質の高いサービスの提供を行う。また、利用団体や貸館利用者を対象としたアンケートによる満足度調査、ご意見箱の設置、さらに日常的な対話を通じて利用者の意見・要望を的確に把握し、業務改善およびサービス向上に継続的に取り組む。

ア. 会館管理運営

受付や窓口業務等の接遇においては、公平で丁寧な対応を基本とし、障害のある方や高齢者など、すべての来館者に対して合理的配慮を提供できるよう努める。

また、舞台技術および施設管理においては、経験豊富な人材を適切に配置し、文化芸術活動としての利用はもとより、産業展示や多目的イベント等にも柔軟に対応できる管理体制を構築する。利用者に対しては、技術的側面から催事の円滑な進行を支援し、要望に応じた安全性と創造性を両立したきめ細やかな舞台技術サービスを提供する。

災害発生時または発生の恐れがある場合には、迅速に防災体制を確立し、関係機関との連携および情報共有を図りながら、利用者の安全確保を最優先に対応する。なお、消防訓練については年2回実施し、消防設備の適切な取り扱い、通報手順および避難誘導が的確に行えるよう、職員の防災意識と対応力の向上を図る。

イ. 人材育成

職員の意識改革および専門性の向上を目的として、びわ湖ホールと連携しながら、職場研修、自己啓発研修、職場外研修の3つの視点から職員研修を継続的かつ発展的に実施する。また、公益法人に関する実務研修、会計研修等への参加を通じて、専門的知識および実務能力の習得に努める。加えて、多様性・包摂性への理解、コンプライアンス意識の向上など、時代の変化に対応した研修内容を取り入れ、組織全体の対応力とサービス水準の向上を図る。

さらに、アートマネジメント研修として、9月末から10月初めに舞台技術研修「イマーシブ・オーディオの可能性」を開催し、他館の技術者や関係団体・企業とも協力し、技術向上を目指す。

令和8年（2026年）度自主事業等一覧

（びわ湖芸術文化交流センターBiWACC（法人本部地域創造部））

（1）自主事業

創造発信プロジェクト

●びわ湖・アーティスト・みんぐる

“みんぐる”（mingle）とは交じり合うという意味で、アートをきっかけに人とひと、人と場所がつながり、知ったり感じたりする楽しさが広がる場をつくるプログラムを実施する。文化・経済フォーラム滋賀との共催事業。

音楽とアートでつづるおうみの民話 vol. 3

8月～10月

シリーズ第3弾は、東近江・蒲生が舞台。コロナ以降中止しているケンケトまつり（帯掛祭）につながる民話「おびのかけはし」を、滋賀県ゆかりのアーティストが、地域の人や子どもたちとの交流により創作を深め制作した音楽と美術で語り継ぐ。

共催：公益財団法人東近江市地域振興事業団

ワークショップ：8月～9月 蒲生岡本町公民館、東近江市あかね文化ホール

コンサート：10月4日（日）東近江市あかね文化ホール

●しがユニークベニュー公演

県内の個性ある建物や歴史的建造物などを活用したアートイベントで、地域固有の魅力と特別な空間体験を同時に提供することをめざすプログラムを実施する。

① 室内楽コンサート

10月25日（日）

日本の郵政創設に携わった山内頼富の邸宅、旧山内邸を会場に、手紙にちなんだ室内楽コンサートを開催する。

会場：旧山内邸（草津市）

協力：草津まちづくり会社

② パフォーマンス公演

未定

県内の若手ダンサーやパフォーマーが会場と出会い、創作したオリジナルパフォーマンスを上演する。

会場：未定

●アーツ&コミュニケーション・パフォーマンス

現代の私たちの興味関心事を切り口に次世代の視点から芸術を捉え、実演と対話を通して、演奏する人、聴く人、それぞれに芸術を楽しむ新しい回路をひらく取り組み。学術研究と実演の場をつないでプログラムを掘り下げ、愛好者だけでなく、テーマに関心を持つ人にも届く企画とする。

女性と音楽 vol. 1

2027年1月～2月

講座：1月16日（土）旧大津公会堂

コンサート：2月27日（土）フィガロホール

共催：旧大津公会堂（指定管理者：特定非営利活動法人 BRAH=art.）

●しがアートコラボレーション事業

県民の芸術文化活動を支える協働事業に取り組み、県内各地でたくさんの感動を広げ、多様な感性が息づく土壌づくりをめざす。

①アートコーディネーター部門

文化団体やアートNPO、アーティストなど芸術文化と地域をつないで活躍する人たちとともに、個性豊かな創作活動を県内各地で展開する。

(1) 第6回能楽を楽しむ

能装束着付実演と能『葵上』

6月23日(火)

近江猿楽の歴史を伝える滋賀で、能楽文化の活性化をめざす団体による企画。『源氏物語』の名作、能『葵上』を上演。学校鑑賞やワークショップに力を入れる。

協働主催：滋賀能楽文化を育てる会

会場：能登川コミュニティセンター

(2) 戦国アーツフィールド長浜

6月～12月頃

豊臣秀吉や織田信長が名を刻んだ長浜のまち。実際の史跡を歩きながら、その土地に残る物語を、舞台と客席の境界がない回遊型演劇で上演。作品と観客の新たな関係性をめざしファンの開拓を図る。

協働主催：特定非営利活動法人はかまる

会場：長浜市街地・黒壁スクエア周辺・小谷城址・姉川古戦場・賤ヶ岳など

(3) 大津をクリエイティブシティにしよう！

8月～12月頃

「大津のまちをアートで彩る」を合言葉に、アーティストとコーディネーターがチームを結成。まちなかの場所と表現をつなぐ学びの場を開き、実践を行う。活動をとおりして理解者や仲間を増やし、地域コーディネーターの発掘と活躍の場を広げる。

協働主催：特定非営利活動法人 BRAH=art.

会場：大津市街地、旧大津公会堂

(4) 高月ドリーミーミッドサマーナイト(仮称)

8月29日(土)・30日(日)

高月図書館の野外ステージでの演劇上演を中心に、子育て支援団体や図書館の持つ人脈を生かしたお祭り気分が味わえるアートフェスティバルを開催。演劇×図書館×子育てのコラボレーションで、高月図書館の再活性化を図る。

協働主催：劇団 虎食み

会場：長浜市立高月図書館

(5) びわ湖から生まれる“しがバレエ”

～白鳥の湖と平和堂テーマソングで巡るバレエツアー～

9月～11月

国内外で研鑽を積んだ若手実力派バレリーナたちが平和堂に登場。びわ湖から生まれる“しがバレエ”をテーマに、(株)平和堂との協働で生活の場である店舗を舞台にした出前バレエを実施。本企画をモデルに、地域芸術活動の共創のあり方を提案する。

協働主催：(株)Yasunart、(株)平和堂

会場：9月6日(日)ビバシティ彦根店

10月12日(月・祝)アル・プラザ八日市

11月23日(月・祝)アル・プラザ栗東

(6) 第貳回 淡海奇譚芸術祭-Ōmi Creative Tales Arts Festival- 11月22日(日)

滋賀発の個性派クリエイターが集まるサブカルチャーフェスティバルを開催。「都会に行かなくても滋賀で楽しめる」サブカル文化を地域資源と組み合わせて発信し、観光への寄与も視野に入れる。

協働主催：アトリエモルフェ

会場：豊郷小学校旧校舎群（予定）

(7) 世界をめぐるコンサート 英語オペラ「電話」

一言葉と音楽でつながる、多文化共生社会— 12月8日(火)

英語のオペラ鑑賞と事前学習を通して異文化理解と芸術を学ぶ、滋賀発の教育型アートプログラムを実施する。地元の中学校、ブラジル人学校、フリースクールと連携し、英語を入口に、オペラの魅力に触れながら互いの文化や感性を理解しあう場をつくる。

協働主催：MEET BY CHANCE、(一社)愛荘町文化協会

会場：愛荘町立ハーティーセンター秦荘

(8) 共生のまち演劇プロジェクト第10回公演 12月12日(土)・13日(日)

人それぞれの違いを当たり前のこととして認め合い、生活する「共生のまち」をめざし障害者の生の声を届ける演劇まちプロ座による演劇公演と関連企画を上演する。

協働主催：共生のまち演劇プロジェクト実行委員会

会場：スカイプラザ浜大津

(9) 信じる、和太鼓の持つ可能性を！～がんばれ太鼓祭～ 2027年2月頃

年齢や性別、障がいの有無等、様々な違いを越えて集った和太鼓チームが出演。多様な表現者が奏でる力強いリズムと個性あふれるパフォーマンスを通して、感動と共感が地域に広がることをめざす。

協働主催：和太鼓は世界をつなぐ滋賀夢プロジェクト

会場：湖北 THG ツインアリーナ（予定）

② ホールプロデュース部門

市町の公立文化施設（文化ホール）と協働し、芸術文化と地域の魅力を次世代に伝えていく事業や、だれもが芸術文化に参加できる事業を実施する。

狂言はじめの一步 2027年1月～2月

平成8年度より継続して、彦根・井伊家に仕えた大蔵流狂言師、茂山千五郎家による狂言公演を開催してきた「てんびんの里文化学習センター」が、改めて子どもたちのための狂言鑑賞を軸に、茂山家の協力を得て企画した狂言公演を開催する。

協働主催：公益財団法人東近江市地域振興事業団

会場：東近江市てんびんの里文化学習センター

●アート活動支援事業 通年

滋賀県や文化芸術団体が主催する事業の実行委員会などに参画し、県域で展開される芸術文化活動に協力する。

(参画予定委員会等)

- ・けいおんストリート Live 実行委員会
- ・ルシオール アート キッズフェスティバル推進委員会
- ・糸賀一雄記念賞音楽祭実行委員会
- ・障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業（滋賀県主催事業） ほか

●総合文化誌『湖国と文化』の編集・発行

通年

県民文化の総合誌として1977年創刊。以来、滋賀の豊かな自然と人々の交流、絶え間なく続く歴史が育み続けてきた文化を丁寧に調べ、滋賀の魅力として発信する。年4回発行し、県内主要書店を中心に、文化施設や観光施設、インターネット等で販売する。

発行日 季刊（7月1日、10月1日、1月1日、4月1日）

発行部数 1回 3,000冊

●情報発信提供事業

通年

びわ湖芸術文化交流センター（BiWACC）のホームページを立ち上げ、県内の芸術文化に関する情報センターとして発信力を強化する。県内で芸術文化活動をしている方、芸術文化活動を応援したい方、芸術文化活動に参加したい方、それぞれの立場の方に、つながる”場”や”きっかけ”を広げていただくよう、場所、資金などの情報共有を充実する。

（2）受託事業

●第56回滋賀県芸術文化祭

8月22日（土）～2027年1月31日（日）（予定）

県民の皆様の文化芸術活動を広く紹介し、公演および創作発表を奨励するため、滋賀県芸術文化祭への参加事業を募る。また、県民の皆様の美術、写真、文芸の各分野の創作活動における発表および鑑賞の場として3つの公募展を開催する。

① 芸術文化祭参加事業

② 主催事業（※会期・会場は予定）

第65回滋賀県写真展覧会 開催期間：10月11日（日）～18日（日）

会場：滋賀県立美術館 ギャラリー

第76回滋賀県文学祭 開催日：11月23日（月・祝）

会場：男女共同参画センター

第80回滋賀県美術展覧会 開催期間：12月9日（水）～16日（水）

会場：滋賀県立美術館

●県内文化情報提供事業

通年

県内各地の文化施設等で行われる各種の文化情報や滋賀の歴史、風土、自然、文化芸術等の文化情報を発信する。

① 湖国文化情報『れいかる』編集・発行

県内で行われる各分野の文化芸術情報を県民の皆様にお届けする。

発行日 年5回程度発行

発行部数 1回 20,000部

② 総合文化誌『湖国と文化』提供

季刊誌として発刊する『湖国と文化』を県内外の図書館や教育機関等に配本し、滋賀の文化の魅力を発信する。

発行日 季刊（7月1日、10月1日、1月1日、4月1日）

配本数 1回 420冊

(3) 独自事業

●文化・経済フォーラム滋賀

通年

「文化で滋賀を元気に！」を合言葉に文化・経済・学術・行政等の各分野の人たちの交流を目的に発足した「文化・経済フォーラム滋賀」の事務局を担い、文化と様々な分野が連携した創造的な活動が広がるよう各種事業を実施する。

事業：文化で滋賀を元気に！賞
文化ビジネス塾、文化経済サロン、提言研究
講演会 ほか

令和8年(2026年)度 BiWACC(地域創造部)自主事業カレンダー

	創造発信	芸術文化サポート	調査・情報交流	受託事業・独自事業
4月		AC第1回ネットワーク会議	1日 「湖国と文化」195・春号発行 新ウェブサイト公開 BiWACC Network 試験運用	9日 文経フォーラム幹事会①
5月		けいおんストリートライブ① 17日 ルシオールアートキッズフェスティバル ACがんばれ太鼓祭 WS(長浜) 30日 しがバレイ・プレ(守山)		14日 文経フォーラム幹事会② 中旬 第1回文芸部門委員会 下旬 芸文祭第1回実行委員会
6月		戦国アーツフィールド(6月～12月) 23日 能楽を楽しむ公演(東近江)	新ウェブサイト「サポートページ」公開 中旬 AC募集開始	1日 「れいかる」7/8月号発行 11日 文経フォーラム幹事会③ 14日 第1回写真部門委員会 中旬 第1回美術部門委員会
7月		AC次年度募集開始(～10月末)	1日 「湖国と文化」196・夏号発行 新ウェブサイト「サポートページ」公開	(上旬 芸文祭第2回実行委員会)*調整 9日 文経フォーラム幹事会④ 12日 第2回写真部門委員会 中旬 文化経済サロン①
8月	みんなの民話WS① 「帯掛ケンケト祭り」を知ろう	1日 大津アートの見方を学ぼう① 1日 琵琶湖一周・アート談話会① 1日 アーツマネジメントセミナー 29-30日 AC高月図書館イベント(長浜)	琵琶湖一周・アート談話会①<再掲> BiWACC Network 運用開始	1日 「れいかる」9/10月号発行 24日 写真展一次審査
9月	みんなの民話WS② 「祭りのこと、受け継ぐことを話そう」 みんなの民話WS③ 「祭りの道具をつくろう&やってみよう」	AC事前相談受付(10/25まで) 6日 ACしがバレイ①(彦根) 12日 大津アートの見方を学ぼう②		10日 文経フォーラム幹事会⑤ 中旬 文化経済サロン② 26日 しがアートフェス事業
10月	4日 みんなの民話公演(東近江) 25日 ユニークベニュー公演 室内楽コンサート(草津)	10日 大津アートの見方を学ぼう③ 12日 ACしがバレイ②(八日市) ACオペラ～世界をめぐるWS(10～11月) けいおんストリートライブ② AC次年度募集締切	1日 「湖国と文化」197・秋号発行	1日 「れいかる」11/12月号発行 5日 写真展二次審査 8日 文経フォーラム幹事会⑥ 上旬 第2回文芸部門委員会 11-18日 写真展覧会(県美) 18日 写真展表彰式 下旬 第2回美術部門委員会
11月		AC次年度審査 22日 AC淡海奇譚芸術祭(豊郷) 23日 ACしがバレイ③(栗東) 糸賀記念音楽祭		上旬 文化ビジネス塾(文産) 12日 文経フォーラム幹事会⑦ 23日 文学祭表彰式
12月		8日 ACオペラを通じて世界をめぐる公演(愛荘) 12-13日 AC共生のまち演劇プロ(大津) 20日 おおつをクリエイティブに展示報告会 20日 AC戦国アーツフィールドフィナーレ		1日 「れいかる」1/2/3月号 2-3日 美術展審査会 10日 文経フォーラム幹事会⑧ 文化で滋賀を元気に賞選考委員会 9-16日 美術展覧会(県美) 13日 美術展表彰式・作品講評会
1月	16日 女性と音楽 講座(大津)	アーツマネジメントセミナー② 琵琶湖一周・アート談話会②	1日 「湖国と文化」198・冬号発行 琵琶湖一周・アート談話会②<再掲>	14日 文経フォーラム幹事会⑨ 17日 第3回写真部門委員会
2月		AC狂言はじめの一歩(東近江) ACがんばれ太鼓祭(長浜)		文経フォーラム幹事会⑩ 文経フォーラム総会・講演会 下旬 第3回美術部門委員会 28日 滋賀文学発行
3月		AC第2回ネットワーク会議	活動報告書発行	1日 「れいかる」4/5/6月号発行 上旬 第3回文芸部門委員会 上旬 芸文祭第3回実行委員会
その他	時期未定 ユニークベニュー公演 パフォーマンス(大津)	活動支援事業 滋賀県障害者等の文化芸術活動 を支える拠点づくり事業(年間4回)		

令和 8 年(2026 年)度自主事業一覧

(滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)

休館前(4月～6月)

《自主公演》

＜オペラへの招待＞

「オペラをこれから見てみたい」という方にぜひオススメの入門編となるオペラであり、びわ湖ホール声楽アンサンブルが「オペラへの扉を開ける」お手伝いする。

●オペラへの招待 林 光作曲『森は生きている』(2公演) 5月9日(土)・10日(日) (室内オーケストラ版／日本語上演・日本語字幕付) 会場：中ホール

林光の名作、びわ湖ホールでもおなじみの『森は生きている』を中ホールで2日間実施する。開館当初、青少年オペラ劇場で実施し、唯一そのままの形でレパートリーとして受け継いでいる人気の高い作品となっている。

指揮：阪 哲朗(びわ湖ホール芸術監督)
演出：中村敬一
出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル
ピアノ：寺嶋陸也
管弦楽：日本センチュリー交響楽団

＜びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演＞

びわ湖ホールの創造活動の核として設立されたホール専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」。定期公演は、オペラアリア、重唱曲、合唱曲、歌曲、宗教曲など、声楽の多様なジャンルでコンサートを行っている。2026年度は、休館中の機会を利用して、初の県外公演(京都公演)を行うなど、県内外で実施しファンの拡大を図る。

●第 83 回定期公演(1公演) 6月20日(土) 「滋賀ゆかりの歌たち」 会場：小ホール

2001年度から声楽アンサンブルの専任指揮者を務め、現在は桂冠指揮者の本山秀毅が、詩人の野呂昶(のろ さかん)や森 哲弥の作品をはじめ、広く滋賀県に関わりのある曲を中心に取り上げる。

指揮：本山秀毅(びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者)
ピアノ：植松さやか
曲目：野呂 昶(詩)・千原英喜(作曲)「湖国のあけぼの」
森 哲弥(詩)・寺嶋陸也(作曲)「年を忘れた少年の歌」 ほか

＜気軽にクラシック＞

実力派アーティストの演奏による、公演時間 1 時間、入場料 1,100 円のコンサート。クラシック音楽の楽しさを満喫できる、文字通り気軽に楽しめる公演をお贈りする。

●気軽にクラシック 43 山際きみ佳 メゾソプラノ 心に寄り添うベルカント(1公演) 4月12日(日) 会場：小ホール

出演：山際きみ佳(メゾソプラノ/びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー)
園田隆一郎(ピアノ)

《びわ湖の春 音楽祭 2026》

びわ湖ホール芸術監督 阪哲朗がプロデュースし、2023 年度から新たにスタートした「びわ湖の春 音楽祭」。優れた音楽家の演奏を手頃な料金で提供し、多くの方々がびわ湖ホールを訪れ、気軽に舞台芸術を楽しんでいただくことで、芸術文化の振興・普及を図るとともに、地域の賑わいづくり、活性化につなげる。

2026 年度は、公演数を増やすと同時に、昨年度好評だった阪指揮による県内の高校生と声楽アンサンブルの共演やびわ湖ホールピアノコンクール受賞者の公演を引き続き行い、舞台芸術の更なる振興を図る。

また、関係団体・事業者による関連企画の実施を図るとともに、県内全域が音楽で盛り上がる期間（4～5 月）を設け、県内各ホールと連携を図ることで、県域で関連の催しを開催し、各地域の活性化にもつないでいく。

日 程：4 月 25 日（土）・26 日（日）

テーマ：誘い（いざない）

公演数：有料公演 18 公演（大・中・小ホール）

（予定）無料公演 15 公演（大・中ホール、メインロビー）

屋外ミニコンサート 1 公演（Oh!Me 大津テラス）

出 演：阪 哲朗（指揮／びわ湖ホール芸術監督）、沖澤のどか、寺嶋陸也（指揮）

京都市交響楽団、神戸市室内管弦楽団（管弦楽）

陸上自衛隊中部方面音楽隊（吹奏楽）、京都橘高等学校吹奏楽部（マーチング）

ヤスミンカ・スタンチュール、田澤恭子、竹田理琴乃、萩原吉樹、植松さやか

森脇 涼（ピアノ）

ニキータ・ボリソグレブスキー、堀米ゆず子（ヴァイオリン）

ゲオルギー・ロマコフ（チェロ）、古賀敦子（フルート）

児玉隼人（トランペット）、長谷川将山（尺八）

石橋栄実（ソプラノ）、藤木大地（カウンターテナー）

甲斐栄次郎、大西宇宙（バリトン）

石濱匡雄（シタール）、ダヤ・トミコ（南インド古典舞踊バラタナティヤム）

中尾幸介（タブラ）

滋賀県高等学校合同合唱団、びわ湖ホールピアノコンクール受賞者

びわ湖ホール声楽アンサンブル、びわ湖ホール四大テノール ほか

〔音楽祭関連公演〕

びわ湖ホール声楽アンサンブル“春”をおくるコンサート（甲賀公演）

4 月 4 日（土） あいこうか市民ホール

びわ湖ホール声楽アンサンブル“春”をおくるコンサート（木之本公演）

4 月 5 日（日） 木之本スティックホール

イオンモール草津 “春”の音楽会

4 月 10 日（金）イオンモール草津

びわ湖ホール声楽アンサンブル ぶんさんスプリングコンサート

4 月 19 日（日） 文化産業交流会館

第 15 回ルシオール アートキッズフェスティバル 0 歳からのコンサート

5 月 17 日（日） 守山市民ホール・大ホール

《普及事業》

●びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演（5 日間 10 公演）

5 月 15 日（金）、18 日（月）、19 日（火）、21 日（木）、22 日（金）

県内の小・中学校を訪問し、学校の体育館をコンサート会場に変えて行う約 1 時間の本格的な音楽公演で歌の魅力を体験していただく。

指揮：本山秀毅（びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者）

大川修司（びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者）

●びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（「ホールの子」事業）（8日間 16公演）
5月27日(水)～29日(金)・6月1日(月)～5日(金)
会場：大ホール

県内のすべての子どもが中学3年生までに舞台芸術に触れる機会を創出することを目的に、びわ湖ホール声楽アンサンブルが出演する大規模オーケストラ公演を実施する。誰もが文化芸術活動を楽しめる共生社会づくりの一環として、特別支援学校、適応指導教室等の児童・生徒も参加いただく。（非公開）

指揮：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）
管弦楽：京都市交響楽団
独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル
脚本・構成：中村敬一

●びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！＜一般公演＞（1公演）
5月30日(土)
会場：大ホール

滋賀県の児童に向けて実施している「ホールの子」事業を、子どもたちのご家族をはじめ、広く一般の方々にも知っていただき、お楽しみいただけるよう、同プログラムを一般向け公演として有料で実施する。

指揮：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）
管弦楽：京都市交響楽団
独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル
脚本・構成：中村敬一

●ロビーコンサート（無料コンサート）
未 定

誰もが気軽に舞台芸術・音楽を楽しんでいただけるようメインロビーなど、パブリックスペースを活用したロビーコンサートを開催する。

●まるっとステージツアー
4月11日(土)・12日(日)
会場：大ホール

劇場そのものを知ってもらうためのバックステージツアーとして「まるっとステージツアー」をびわ湖ホールの休館前に開催する。

休館中（7月～）

《自主公演》

＜プロデュースオペラ／守山市民ホール開館40周年記念公演＞

●プロデュースオペラ モーツァルト作曲 歌劇『ドン・ジョヴァンニ』

セミ・ステージ形式（2公演） 2027年1月23日（土）・24日（日）
（イタリア語上演・日本語字幕付） 会場：守山市民ホール 大ホール

“創造する劇場”として情報発信を目指すびわ湖ホールは、開館以来、日本最高水準の力を結集してオペラの自主制作を続けており、その活動は全国的に高く評価されている。

2026年度は、県内でも屈指の音響を誇る守山市民ホールにて、モーツァルトの名作をセミ・ステージ形式でお贈りする。日本を代表するソリストと共にびわ湖ホール声楽アンサンブルのメンバーをキャストに配して、阪の弾き振りにより、国内外に向けて強く発信する。

指揮・フォルテピアノ：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）

演出：中村敬一

出演：大西宇宙、池内 響、妻屋秀和、松森 治*、迎 肇聡*、平野 和、
伊藤 晴、船越亜弥*、奥本凱哉**、福西 仁**、並河寿美、中島郁子
青山 貴、市川敏雅*、高田瑞希**、石橋栄実

*びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー **びわ湖ホール声楽アンサンブル

合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル

管弦楽：京都市交響楽団

共 催：公益財団法人守山市文化体育振興事業団

＜オペラへの招待＞

●オペラへの招待 ニーノ・ロータ作曲 『フィレンツェの麦わら帽子』（2公演）

2027年3月6日（土）・7日（日）
（イタリア語上演・日本語字幕付） 会場：栗東芸術文化会館さくら 大ホール

イタリア映画音楽の大巨匠ニーノ・ロータ作曲『フィレンツェの麦わら帽子』を、イタリアオペラの指揮に定評のある園田隆一郎の指揮のもと、声楽アンサンブルがキャストを務める＜オペラへの招待＞シリーズとして新制作する。

指揮：園田隆一郎

演出：中村敬一

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

管弦楽：日本センチュリー交響楽団

共 催：栗東芸術文化会館さくら（指定管理者：株式会社ケイミックスパブリックビジネス）

＜新国立劇場 地域招聘オペラ公演 2026 びわ湖ホール＞

●林 光作曲 『森は生きている』（2公演）

7月18日（土）・19日（日）
（室内オーケストラ版／日本語上演・日本語字幕付） 会場：新国立劇場 中劇場

びわ湖ホール声楽アンサンブルがレパートリーとして上演し続けている林光の名作『森は生きている』を、新国立劇場で2日間上演する。びわ湖ホール声楽アンサンブルのオペラ歌手としての魅力を全国に向けて発信していく。

指揮：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）

演出：中村敬一

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

管弦楽：日本センチュリー交響楽団

ピアノ：寺嶋陸也

主 催：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、新国立劇場

＜オーケストラ＞

●守山市民ホール開館 40 周年記念公演

ジルヴェスター・コンサート 2026（1 公演）

12 月 31 日（木）

会場：守山市民ホール 大ホール

1998 年の開館以来、新年を素敵な音楽で迎えるコンサートとして大晦日に開催している。ファンファーレ隊・合唱団の一般公募に加え、2025 年から小学 3 年生から中学生までのユース合唱団も広く公募し出演いただいているほか、多数の協賛支援をいただいている抽選会など、上質な音楽でありながら、かつエンターテインメント性を併せもった特別なコンサートとしてびわ湖ホールで定着している。2026 年は、休館に入ることから、守山市民ホールと連携し、同ホールの開館 40 周年も祝して開催する。

指揮：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）

ソリスト：未定

司 会：桂 米團治

管弦楽：大阪交響楽団

独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル

合唱：ジルヴェスター合唱団・ユース合唱団（一般参加）

ファンファーレ：ジルヴェスター・ファンファーレ隊（一般参加）

共 催：公益財団法人守山市文化体育振興事業団

●びわ湖ホール子どものための管弦楽教室（2 公演）

2027 年 2 月 23 日（火・祝）＜守山市民ホール開館 40 周年記念公演＞

会場：守山市民ホール 大ホール

2027 年 3 月 14 日（日） 会場：ひこね市文化プラザ グランドホール

2008 年度より実施してきた好評のシリーズを県内 2 か所で開催する。

子どもたちが楽しみながら学べるだけでなく、大人も一緒にオーケストラについての知識や理解を深められる公演として、親しまれている。

指 揮：藤岡幸夫（関西フィルハーモニー管弦楽団 総監督・首席指揮者）

管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団

共 催：守山公演 公益財団法人守山市文化体育振興事業団

彦根公演 ひこね市文化プラザ

（指定管理者 株式会社ケイミックスパブリックビジネス）

●びわ湖ホールピアノコンクール優勝者コンサート

10 月 30 日（金）

会場：ザ・シンフォニーホール

第 1 回ピアノコンクール優勝者をソリストに迎え、コンチェルトの名曲を阪哲朗の指揮でお贈りする。

指 揮：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）

ピアノ：第 1 回びわ湖ホールピアノコンクール各部門第 1 位

牧嶋慧大（A 部門／小学生以下）

小塩真愛（C 部門／一般）

辰野 翼（C 部門／一般）

三原有紀（C 部門／一般）

管弦楽：京都市交響楽団

曲 目：チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第 1 番 変ロ短調 作品 23

モーツァルト：ピアノ協奏曲第 23 番 イ長調 K. 488

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第 2 番 ハ短調 作品 18 ほか

＜びわ湖ホール 名曲コンサート＞

クラシック音楽の初心者で何を聴いてよいかわからない方、そしてクラシック・ファンの方まで気軽に、かつ満足して聴いていただける選曲、出演者でお届けするコンサートシリーズ。

●華麗なるオーケストラの世界 vol. 9

曾我大介×日本センチュリー交響楽団

10月10日(土)

会場：ひこね市文化プラザ グランドホール

「これぞ名曲！」といわれる魅力ある楽曲をオーケストラの生演奏でお楽しみいただき、クラシック音楽ファンの拡大を図る。

お話・指揮：曾我大介

管弦楽：日本センチュリー交響楽団

曲 目：ベートーヴェン：交響曲第5番ハ短調 op. 67「運命」

ドヴォルジャーク：交響曲第9番ホ短調 op. 95「新世界より」

＜びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演＞

●第84回定期公演（滋賀県高島公演）（1公演）

9月12日(土)

「信長貴富の世界」

会場：ガリバーホール

休館中に行う第1回目の定期公演は、高島市のガリバーホールとの共催で開催する。2001年度から声楽アンサンブルの専任指揮者を務め、現在は桂冠指揮者の職にある本山秀毅の指揮で、作曲家として評価の高い信長貴富作品を取り上げ、老若男女が楽しめる親しみのあるプログラムをお届けする。当日は信長氏自身も指揮で参加。定期公演としては初の地域で活躍する児童合唱団と共演する。

指 揮：本山秀毅（びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者）

信長貴富

ピアノ：植松さやか

児童合唱：高島少年少女合唱団

曲 目：信長貴富作曲・編曲作品

共 催：高島市教育委員会

●第85回定期公演（京都公演）（1公演）

12月19日(土)

「バロッククリスマス～バッハ、ヘンデル、シャルパンティエ」

会場：京都府立府民ホール“アルティ”

休館中の機会を利用して、初めて県外で定期公演を行う。古楽器アンサンブルとともに、フランスのクリスマスの歌である「ノエル」の旋律が多用され、お祝い気分にあふれた牧歌的で美しいシャルパンティエの「真夜中のミサ曲」をはじめ、クリスマスの季節にぴったりの曲を雰囲気たっぷりにお届けする。

指 揮：本山秀毅（びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者）

弦 楽：古楽器アンサンブル、鍵盤楽器：パブロ・エスカンデ

曲 目：シャルパンティエ：「真夜中のミサ曲」ほか

協 力：京都府立府民ホール“アルティ”

●第86回定期公演（滋賀県草津公演）（1公演）

2027年3月27日(土)

「ミュージカル・映画の歌たち」

会場：草津クレアホール

休館中に行う県内2回目の定期公演は、草津市のクレアホールとの共催でお届けする。びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者を務める大川修司が登場。ホールからの要望で、この地域のお客様に人気の映画音楽、ミュージカルに焦点を当て、声楽アンサンブルの魅力

を発信していく。

指 揮：大川修司（びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者）
ピアノ：關口康佑
曲 目：映画音楽、ミュージカル作品
共 催：公益財団法人草津市コミュニティ事業団
後 援：草津市、草津市教育委員会

<室内楽・声楽>

●びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」（2公演）

8月11日(火・祝)

会場：草津クレアホール

7月25日(土) 文化産業交流会館 イベントホール内「長栄座」特設舞台

びわ湖ホール声楽アンサンブルが、唱歌や童謡に加え、昭和や平成に親しまれた名曲を、県内ホールと文化産業交流会館の特設舞台「長栄座」でお届けする。

指 揮：本山秀毅（びわ湖ホール声楽アンサンブル桂冠指揮者/草津公演）
森脇涼（米原公演）
編曲・ピアノ：植松さやか
出 演：びわ湖ホール声楽アンサンブル
管弦楽：京都フィルハーモニー室内合奏団
曲 目：夏は来ぬ、少年時代、花の街、昴、また逢う日まで、乾杯 ほか
共 催：公益財団法人草津市コミュニティ事業団

●びわ湖ホール四大テノール

2027年2月20日(土)

会場：日野町民会館わたむきホール虹

「明るい歌声で日本を元気に！」テノール4人組が、県内ホールで明るい歌声を響かせる。

出 演：びわ湖ホール四大テノール（清水徹太郎、竹内直紀、古屋彰久、山本康寛）
植松さやか（ピアノ）
共 催：公益財団法人日野町文化振興事業団

●室内楽への招待 ゴルトムント弦楽四重奏団（1公演）

9月5日(土)

会場：草津アマカホール

世界の第一線で活躍する室内楽グループによる演奏をお届けする。今回は、2009年に結成、ドイツ・ミュンヘンをベースに活躍する弦楽四重奏団が登場する。使用楽器はストラディヴァリウス「パガニーニ・クアルテット」。また公演にあわせて、日本室内楽振興財団と連携し、若手音楽家にむけたマスタークラスも行う。

出 演：ゴルトムント弦楽四重奏団
フロリアン・シェッツ（第1ヴァイオリン）
ピンカス・アット（第2ヴァイオリン）
クリストフ・ヴァンドーリ（ヴィオラ）
ラファエル・パラトーレ（チェロ）
曲 目：ハイドン作曲 弦楽四重奏曲第38番 変ホ長調 作品33-2
シューベルト作曲 弦楽四重奏曲第14番「死と乙女」ニ短調 D 810 ほか

<関連企画>

マスタークラス 9月6日(日)
受講生：びわ湖ミュージックハーベスト受講生 ほか

＜気軽にクラシック＞

●気軽にクラシック（2公演）

実力派アーティストの演奏によるクラシック音楽を気軽にお楽しみいただく人気シリーズを休館中も県内ホール等と連携して取り組む。

・「気軽にクラシック 44」

松下美奈子（ソプラノ）×山本康寛（テノール）デュオ・コンサート

日時：11月3日（火・祝）

会場：文化産業交流会館 新江州シアター（小劇場）

出演：松下美奈子（ソプラノ／びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー）

山本康寛（テノール／びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー）

中村圭介（ピアノ）

連携：文化産業交流会館

・「気軽にクラシック 45」 びわ湖さがみねシスターズ

日時：2027年3月22日（月・祝）

会場：東近江市あかね文化ホール

出演：びわ湖さがみねシスターズ

船越亜弥（ソプラノ／びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー）

山際きみ佳（メゾソプラノ／びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー）

植松さやか（ピアノ）

共催：公益財団法人東近江市地域振興事業団

＜古典芸能＞

●野村万作・野村萬斎狂言公演（2公演）

7月30日（木）・31日（金）

会場：文化産業交流会館 イベントホール内「長栄座」特設舞台

びわ湖ホールに開館当初から毎年出演しているのは、狂言師、野村万作・野村萬斎の二人だけ。毎年お贈りしてきた狂言公演を、休館中には文化産業交流会館「長栄座」特設舞台にて実施し、これまで足を運べなかった方にも本公演をご覧いただく機会とする。

出演：野村万作、野村萬斎、野村裕基 ほか

演目：未定

連携：文化産業交流会館

《普及事業》

●阪 哲朗オペラセミナーⅣ～『コジ・ファン・トゥッテ』～ 8月20日（木）～24日（月）

会場：大阪音楽大学 ザ・カレッジ・オペラハウス

若杉・長野音楽基金を活用して実施する、国内外のオペラの現場を経験してきた阪芸術監督が講師を務めるオペラセミナー第4弾。モーツァルト作曲『コジ・ファン・トゥッテ』を題材に実践演習を行い、オペラの現場で求められる力を身に付ける。

講師：阪 哲朗（びわ湖ホール芸術監督）

三ッ石潤司（コレペティトウア）

西 聡美（ベルリン国立歌劇場コレペティトウア）

受講者：プロの指揮者、コレペティトウアを目指す若手音楽家

独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル

管弦楽：大阪交響楽団

●林 康子 声楽曲研修

10月28日(水)～30日(金)

会場：栗東芸術文化会館さくら 小ホール

若杉・長野音楽基金を活用し、びわ湖ホール声楽アンサンブルのための研修を行う。世界を舞台に活躍したソプラノ歌手 林 康子を迎え、指導の様子を広く一般に公開する。2021年に始まった林氏の研修は5度目を迎える人気の講座となっている。

講師：林 康子

ピアノ：越知晴子

受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル

共催：栗東芸術文化会館さくら（指定管理者：株式会社ケイミックスパブリックビジネス）

●ふれあい音楽教室

9月～11月予定

県内の小・中学校の授業に声楽アンサンブルのメンバー2人とピアニストが参加し、ミニコンサートや歌唱指導を行う。オペラ歌手と間近でふれあうことにより、芸術に親しみ、自ら歌う楽しさを感じていただく。

●県内巡回オペラ『泣いた赤おに』

9月～11月予定

浜田廣介の児童文学を原作に、松井和彦が構成・作曲したオペラ『泣いた赤おに』を体育館等で上演する。可能な限り、劇場さながらの本格的な美術、衣裳、照明を用意し、学校にしながら本格的な舞台芸術の魅力を体験していただく。

指揮：大川修司（びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者）ほか

演出：中村敬一

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

会場：県内小中学校体育館等

●受託事業 舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演） オペラ公演 9月～11月予定

独立行政法人日本芸術文化振興会委託事業として、県外の小中学校にてオペラ『泣いた赤おに』公演を行う。

事前に行うワークショップでは「ふれあい音楽教室」と同内容の授業を行い、びわ湖ホールとびわ湖ホール声楽アンサンブルの活動、歌手という職業、オペラ『泣いた赤おに』について紹介する。

指揮：大川修司（びわ湖ホール声楽アンサンブル指揮者）ほか

演出：中村敬一

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル

会場：指定された地域の小中学校・特別支援学校体育館

●ホスピタルコンサート

病院、福祉施設等を会場に、びわ湖ホール声楽アンサンブルや本県出身の新進演奏家等によるコンサートを開催し、病気療養や高齢など様々な理由で生の音楽に触れる機会の少ない方に心穏やかな時間を過ごしていただく機会を提供する。

協力：一般社団法人滋賀県病院協会

一般社団法人滋賀県老人福祉施設協議会（予定）

●公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）

滋賀県が「創造性豊かな地域」となるよう、一般財団法人地域創造と連携して、現代ダンスのアウトリーチと公募ワークショップを実施する。今回は、「子ども」を中心とした実施を予定している。

開催時期：夏休み時期にアウトリーチ3～5回、公募ワークショップ1回
実施場所：アウトリーチ派遣先（調整中）
 公募ワークショップ 文化産業交流会館
連携：文化産業交流会館

●講座・ワークショップ等

調整中

公演に対する理解を深める機会づくりとして、自主公演のオペラに関連した講座やワークショップ、プレトーク等を開催する。

「ドン・ジョヴァンニ」講座（1回目）

開催日：12月5日（土） 会場：コラボしが21（3階）大会議室

講師：東条碩夫（音楽評論家）

「ドン・ジョヴァンニ」講座（2回目）

開催日：12月20日（日） 会場：コラボしが21（3階）大会議室

講師：東条碩夫（音楽評論家）

「フィレンツェの麦わら帽子」講座

開催日・会場：調整中

講師：中村敬一（演出家）

●びわ湖ホール夏休み子ども向け企画 ピアノ解体ショー 8月8日（土）・9日（日）

会場：文化産業交流会館 イベントホール

音楽に関心を持ってもらうため、子ども向けの夏休み企画を行う。ピアノ調律師を講師に迎え、実際にピアノの中がどうなっているかを見せながら、ピアノの構造や音が鳴る仕組みを解説する。解体前、子ども達と共に組み立てた後には、ピアニストによる演奏を聴いていただく。

連携：文化産業交流会館

共催事業

●久末 航 凱旋記念コンサート (1 公演)

4 月 30 日(木)

会場：大ホール

2025 年、エリザベート王妃国際音楽コンクールで、日本人史上最高位（ピアノ部門）となる 2 位を受賞するという快挙を成し遂げた久末航が、地元・滋賀で贈る待望の凱旋記念公演を開催する。

出演：久末 航（ピアノ）

阪 哲朗（指揮）

日本センチュリー交響楽団（管弦楽）

曲目：ブラームス：ハンガリー舞曲集（管弦楽版）より 第 1、3、4、5、6、7、10 番

ブラームス：ピアノ協奏曲 第 1 番 ニ短調 op. 15

●森谷真理&務川慧悟 デュオ・リサイタル (1 公演)

5 月 24 日(日)

会場：小ホール

びわ湖ホールのオペラにも多数出演する日本トップのソプラノ森谷真理が実力派ピアノスト務川慧悟とともに歌曲をお届けする。

出演：森谷真理（ソプラノ）、務川慧悟（ピアノ）

曲目：ヒンデミット：マリアの生涯 op. 27 (1948 年版)

メシアン：地と天の歌

●びわこのこえフェスティバル vol. 9 (2 公演)

6 月 7 日(日)

会場：中ホール

お子様やオペラ入門者にうってつけの公演と、オペラ珠玉の名場面を抜粋したオペラ愛好家にもお楽しみいただける公演をお届けする。

出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ登録メンバー ほか

●TAIRIK プロデュース「古澤 巖の品川カルテット」

6 月 8 日(月)

会場：大ホール

カリスマ的なパフォーマンスで聴衆はもとより、演奏家からも絶大な信頼を集める古澤巖が立ち上げた「品川カルテット」。古澤がその才能に惚れ込んだロベルト・ディ・マリーノ作品と弦楽四重奏の名曲を演奏する。客席数は限定 300 席に設定し、ゆったりと聞けるコンサートを 2 公演、そしてその前には乳幼児連れの方などを対象としたフリーコンサート（30 分間の無料コンサート）を行う。

ヴァイオリン：古澤 巖、福田悠一郎 ヴィオラ：TAIRIK チェロ：高木慶太

曲目：ロベルト・ディ・マリーノ作品 ほか

令和8年(2026年)度 びわ湖ホール自主事業カレンダー

※共催予定事業を含む。

		大ホール	中ホール	小ホール
4月	休館前	12(日)気軽43 山際さみ佳 25(土)・26(日)びわ湖の春 音楽祭2026 30(木)【共催】久未航 凱旋記念コンサート	25(土)・26(日)びわ湖の春 音楽祭2026	25(土)・26(日)びわ湖の春 音楽祭2026
5月		27(水)～29(金)音楽会へ出かけよう！ 30(土)音楽会へ出かけよう！ 一般公演	9(土)・10(日)オペラへの招待『森は生きている』	24(日)【共催】森谷真理
6月		1(月)～5(金)音楽会へ出かけよう！ 8(月)【共催】品川カルテット	7(日)【共催】びわこのこえvol.9	20(土) BVE第83回定期
		県内		県外
7月	休館期間	30(木)・31(金)野村狂言（文化産業交流会館）		18(土)・19(日)地域招聘オペラ公演『森は生きている』（新国立劇場）
8月		8(土)・9(日)ピアノ解体ショー（文化産業交流会館） 11(火・祝)美しい日本の歌（草津クリアホール）		20(木)～24(月)オペラセミナー(大阪音楽大学)
9月		5(土)ゴルトムント弦楽四重奏団（草津アマカホール） 6(日)ゴルトムント弦楽四重奏団 マスタークラス（草津アマカホール） 12(土)BVE第84回定期（ガリバーホール）		
10月		10(土)名曲 華麗なるオーケストラの世界（ひこね市文化プラザ） 28(水)～30(金)声楽曲研修（栗東さくら）		30(金)ピアノコンクール優勝者コンサート(ザ・シンフォニーホール)
11月		3(火・祝)気軽44 山本康寛・松下美奈子 デュオ（文化産業交流会館）		
12月		31(木)シルヴェスター・コンサート（守山市民ホール）		19(土)BVE第85回定期（京都府民ホールALTI）
1月		23(土)・24(日)プロデュースオペラ『ドン・ジョヴァンニ』（守山市民ホール）		
2月		20(土)四大テノール（わたむきホール虹） 23(火・祝)子どものための管弦楽教室（守山市民ホール）		
3月		6(土)・7(日)オペラへの招待『フィレンツェの麦わら帽子』（栗東さくら） 14(日)子どものための管弦楽教室（ひこね市文化プラザ） 22(月・祝)気軽45 びわ湖さがみねシスターズ 27(土)BVE第86回定期（草津クリアホール）		
その他		4月 音楽祭関連公演 5月 学校巡回公演（5日間 県内小中学校10公演） 7月25日(土)美しい日本の歌（米原公演） ※文化産業交流会館主催 9月～11月 ふれあい音楽教室 9月～11月 県内巡回オペラ『泣いた赤おに』、舞台芸術等総合支援（学校巡回公演）オペラ ホスピタルコンサート 8月19日(水)～22日(土)公共ホール現代ダンス活性化事業 ロビーコンサート（無料コンサート） 12月5日(土)・20(日)オペラ講座（ドン・ジョヴァンニ） ワークショップ、まるっとステージツアー		

※BVE：びわ湖ホール声楽アンサンブル

令和8年(2026年)度 自主事業一覧

(滋賀県立文化産業交流会館)

イベントホール

●芝居小屋「長栄座」夏のフェスティバル 2026 7月25日(土)～ 8月2日(日)

イベントホールに特設する芝居小屋「長栄座」において15周年の開催。「夏のフェスティバル」として、子どもから大人まで楽しめる公演等を行う。

①びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」米原公演 vol.6 7月25日(土)

童謡や唱歌、歌謡曲等を披露する。声楽アンサンブルとともに歌うコーナーでは、観客が懐かしのメロディを口ずさむことができると好評。

②昔あそびのひろば 2026 7月26日(日)

紙芝居、輪投げ、めんこ、けん玉、コマ回しなど、昔から親しまれている懐かしい遊びや縁日を芝居小屋「長栄座」で家族そろってお楽しみいただく。

③野村万作・野村萬斎狂言公演 *びわ湖ホールとの連携事業 7月30日(木)・31日(金)

びわ湖ホールが開館当初から毎年お贈りしてきた狂言公演を、芝居小屋「長栄座」で2日間にわたり開催。びわ湖ホールとは異なる芝居小屋情緒の雰囲気でお楽しみいただく。

④長栄座「湖北百景 一観音さんの里」 8月2日(日)

地域資源を公演の題材に取り上げる「湖北百景」。令和6年度から3年計画で、「竹生島」「余呉湖」、そして令和8年度は「観音」をテーマに、湖北の観音信仰や井上靖著『星と祭』を題材とした自主制作公演を計画。

●ぶんさん やってみよう！吹奏楽シリーズ Vol.3 10月18日(日)

連携・協力協定5年目を迎えるシエナ・ウインド・オーケストラとの取り組み。中高生を対象に、プロから直接指導を受けられる楽器クリニックと、身近に鑑賞でき、ともに演奏する機会を設け、北部地域の吹奏楽振興を図る。

●ぶんさん0歳児からのコンサート vol.6 11月23日(月・祝)

ベビーカーに乗ったままの0歳児から大人まで誰もが気軽に楽しめる、大阪交響楽団とパフォーマンズのコラボレーションコンサート。指揮は、米田寛士(第59回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝)が4年連続で務める。

●ユースシアター事業 12月20日(日) (5月～出演者募集)

年齢・居住地域の異なるユース世代がコミュニケーションを深め、表現力や想像力を育んでもらうことを目的に開催。様々な子どもたちに寄り添いながらミュージカルを創り上げる。

●フィールドアート 2027 2027年1月23日(土)・24日(日)

縦横無尽に隊列が動けるアクティングエリアが必要なマーチングには、平面床であるイベントホールの特徴を最大限発揮できる。滋賀をはじめ関西を拠点に活躍するマーチングバンド等の躍動感あふれるパフォーマンスを届ける。

●親子で楽しむデジタルアトラクション Asobeats♪(アソビーツ) 2027年3月13日(土)・14日(日)

プロジェクションマッピングなどのバーチャル技術を取り入れたアトラクションイベントやダンスパフォーマンスを融合させたステージショーを家族でお楽しみいただく。

●ポピュラー音楽コンサート

年3公演予定

約2,000人が集客できるイベントホールの特性を活かし、ポピュラー音楽コンサートを開催。県内外から多くのお客様が訪れ、近隣のホテル、飲食店の利用など、県北部における経済的効果が期待できる。

新江州シアター（小劇場）

●「びわ湖の春 音楽祭 2026」米原公演 ぶんさんスプリングコンサート

4月19日（日）

びわ湖ホール声楽アンサンブルのソロ登録メンバーを中心に、湖北地域ならではの春らしい趣向でお届けする。

●びわ湖ミュージックフォレスト

年4公演

滋賀県にゆかりのある若手演奏家によるコンサートシリーズ。若手演奏家に演奏の機会を設け、大きく羽ばたく支援をするコンサート。観客のリピーターも多く、フレッシュな人材を応援する輪が広がってきている。

- ・File1 シンギング・トランペット 5月5日（火・祝）
- ・File2 ピアノ ジョイントリサイタル 6月28日（日）
- ・File3 Flute×Violin×Cello 7月12日（日）
- ・File4 Fagoto×Oboe×Clarinet×Horn×Piano 2027年2月23日（火・祝）

●びわ湖ミュージックコネクト

年2公演

キャリアを重ねてきた滋賀県にゆかりのある音楽家が、新しい創造を未来に向けて発信していくコンサートシリーズ。出演した音楽家が次の演奏家を紹介するという、バトンを渡すように演奏家を繋いで（コネクト）いく。

- ・Vol.5 中嶋俊晴 カウンターテナー リサイタル 9月19日（土）
- ・Vol.6 竹林秀憲 フルート リサイタル 2027年2月14日（日）

●気軽にクラシック 44 松下美奈子（ソプラノ）×山本康寛（テノール）デュオコンサート

* びわ湖ホールとの連携事業 11月3日（火・祝）

実力派アーティストの演奏によるクラシック音楽を気軽に楽しみたいとびわ湖ホールの人気シリーズを、新江州シアター（小劇場）にてお届けする。

普及事業

【人材育成】

●邦楽専門実演家養成事業

10月～2月（成果発表会2月7日（日））

箏・十七絃・三絃のアンサンブル技術を実践的に学ぶ講座。流派の垣根を越え、第一線で活躍する講師陣による指導を受けられる当講座は全国的にも稀である。また、当事業の修了生が主体となって活動する滋賀県邦楽専門集団「しゅはり」は、芝居小屋「長栄座」公演などで活躍する。

●アートマネジメント人材養成講座

「舞台技術研修～イマーシブ・オーディオの可能性」

9月下旬～10月上旬

舞台技術の向上を図るための人材養成講座で、令和8年度は音響分野を取り上げる。イマーシブ・オーディオは、聴衆を音の空間の中に包み込み、従来にない臨場感と没入感を提供することで、芸術空間の新たな可能性を切り開く。演奏家の実演も交えて実施する。

【普及啓発】

●小中学校への邦楽アウトリーチ「和のじかん」

10月～2月

邦楽（箏・十七絃・尺八）の演奏家を小中学校に派遣し、子どもたちに邦楽との出会いの場をつくるアウトリーチ事業。小中学校の音楽の学習指導要領では邦楽が取り上げられており、希望校が増加している。

●ぶんさん箏曲アンサンブル（キッズ、ジュニア） 8月～11月（成果発表会 11月8日（日））

小学生から高校生を対象に、日本の古典芸能の世界を身近に感じ、その楽しさを次世代に伝えるため箏の講座を行う。小学生の「キッズ」は箏曲演奏の基礎や所作を学ぶ。中高生の「ジュニア」は箏曲アンサンブルでワンランク上の演奏をめざす。

●びわこ文化センター 文化講座

通年

音楽、美術、書道など約70講座を開講。センターには、火曜から土曜日まで老若男女問わず多くの方が来館され、当館の賑わいにもつながっている。

・こども日本舞踊教室

通年（成果発表会 11月8日（日））

小学生から高校生までを対象に、日本舞踊の特別講座を行う。子どもたちに伝統芸能に触れる機会を作るだけでなく、あいさつなどの礼儀作法や所作も身に付ける。成果発表会は、「ぶんさん箏曲アンサンブル」とともに、新江州シアター（小劇場）にて開催する。

・「かがやき☆フェスタ 2026」

5月22日（金）～24日（日）

びわこ文化センター受講生が日々培った成果を発表する場として、舞台発表や作品展示を行う。また、各講座の体験コーナーを設け、新規会員の獲得に努める。

●びわ湖ホール夏休み企画 ピアノ解体ショー＊びわ湖ホールとの連携事業

8月8日（土）・9日（日）

子どもたちに音楽への関心を持ってもらうためのびわ湖ホール夏休み企画を開催。ピアノ調律師がピアノの構造や音が鳴る仕組みを解説し、ピアニストによる演奏も間近で聴いていただく。

●公共ホール現代ダンス活性化事業 ＊びわ湖ホールとの連携事業

8月22日（土）

公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動の環境づくりなどを目的とした事業を一般財団法人地域創造と共催で開催。子どもを中心に現代ダンスのアウトリーチと公募ワークショップを実施する。

【産業連携】

●「長栄座」公演ゆかりの地を訪ねて（観光協会等との共催）

8月2日（日）

井上靖が訪ねた湖北地域の自然や歴史、食文化を体感した後、「湖北百景-観音さんの里」公演をお楽しみいただくツアー。湖北地域や芝居小屋「長栄座」に魅力を感じ、再度訪れていただき地域の活性化につながることを期待して実施する。

●近江のあたらしい伝統産業展

8月2日（日）

芝居小屋「長栄座」公演にあわせて、地域のなかで育まれた伝統的工芸品や特産品などの展示・販売を県イノベーション推進課の協力を得ながら行う。

●文化ビジネス塾 in 文化産業交流会館（文化・経済フォーラム滋賀との共催）

未定

多様な分野で活躍している人たちと芸術文化を通じた地域振興について考えるシンポジウムを開催する。

【情報提供】

●プレイガイド&アートインフォメーションコーナー

通年

ロビーにおいて、県内外の催し物のポスターやチラシを掲出、湖北地域や伝統芸能、音楽に関する書籍、新聞の配架を行う。気軽に訪れ、思い思いの時間を過ごしていただける空間づくりをめざす。

共催事業

●糸賀一雄記念賞第二十五回音楽祭

11月29日(日)

イベントホールにて、同音楽実行委員会、社会福祉法人グローと共催で実施。併せて「合理的配慮」をテーマにした研修会を同音楽祭開催日までに行う。

受託事業

●平和堂財団 音楽事業（主催：公益財団法人平和堂財団）

滋賀県内の次世代を担う若い人たちの健全な成長に長年にわたって注力されている平和堂財団の音楽事業を受託し、滋賀県にゆかりのある若手演奏家の育成プログラムの制作を担う。

・久末航凱旋記念コンサート 4月30日(木)

・芸術奨励賞受賞者による「鳩の音楽会」 10月1日(木)、3日(土)、4日(日)

・音楽部門芸術奨励賞選考会 2027年1月11日(月・祝)

・室内楽セミナー&公演「びわ湖ミュージックハーベスト」2027年3月25日(木)～28日(日)

令和8年(2026年)度 文化産業交流会館自主事業カレンダー

	イベントホール	新江州シアター(小劇場)	ホール外
4月		・19日(日)びわ湖ホール声楽アンサンブルぶんさんスプリングコンサート	・4/30(木)久末航凱旋記念コンサート
5月	・22日(金)～24日(日)かがやき☆フェスタ2026	・5日(火・祝)ミュージックフォレストFile1 シンギング・トランペット	
6月		・28日(日)ミュージックフォレストFile2 ピアノ ジョイントリサイタル	
7月	・25日(土)びわ湖ホール声楽アンサンブル「美しい日本の歌」米原公演 Vol.6 ・26日(日)芝居小屋「長栄座」昔あそびのひろば 2026 ・30日(木)・31日(金) びわ湖ホール 野村万作・萬斎狂言公演	・12日(日)ミュージックフォレストFile3 Flute × Violin × Cello	・4日(土)長栄座をさらに楽しむブレ企画
8月	・2日(日)湖北百景一観音さんの里 近江のあたらしい伝統産業展 ・8日(土)・9日(日) びわ湖ホール夏休み企画 ピアノ解体ショー ・22日(土) 公共ホール現代ダンス活性化事業		・2日(日)「長栄座」公演ゆかりの地を訪ねて
9月		・19日(土)びわ湖ミュージックコネクト Vol.5 中嶋俊晴カウンターテナーリサイタル	
10月	・18日(日)シエナ・ウインド・オーケストラ コンサート		・鳩の音楽会 1日(木)高槻城公園芸術文化劇場 3日(土)ひこね市文化プラザ 4日(日)栗東芸術文化会館さくら
11月	・23日(月・祝)ぶんさん0歳児からのコンサートVol. 6 ばふおーまんすと楽しむおーけすとら ・29日(日)糸賀一雄記念賞第二十五回音楽祭	・3日(火・祝)びわ湖ホール気軽にクラシック44 松下美奈子(ソプラノ) × 山本康寛(テノール) デュオ・コンサート ・8日(日)ぶんさん箏曲アンサンブル・こども日本舞踊室合同発表会	和のじかん
12月	・20日(日)ユースシアター事業		学校訪問
2027年1月	・23日(土)、24日(日)フィールドアート2027		
2月		・7日(日)「邦楽専門実演家養成事業」演奏会 ・14日(日)びわ湖ミュージックコネクトVol.6 竹林秀憲フルートリサイタル ・23日(火・祝)ミュージックフォレストFile4 Fagoto × Oboe × Clarinet × Horn × Piano	
3月	・13日(土)・14日(日)親子で楽しむデジタルアトラクション Asobeats ♪	・25日(木)～28日(日)びわ湖ミュージックハーベスト2026	

(9月下旬～10月上旬) アートマネジメント人材養成講座
舞台技術研修～イメージ・オーディオの可能性～
(開催月日未定)

・ポピュラー音楽コンサート 3本(イベントホール)
・文化ビジネス塾in文化産業交流会館
(通年) びわこ文化センター文化講座
・プレイガイド&アートインフォメーションコーナー